

藤高祭 (7月5日)

毎年秋にボランティア訪問に来ていただいている、また今回の花の夏祭りにもボランティアに来ていただいている旭川藤女子高等学校の学園祭に、大先輩の山田紀子さんが花を代表して行ってまいりました。学園祭らしい飾りや生徒の皆さんの作品を見たり、食べたり飲んだり

楽しんできました。「若い生徒さんが頑張っていますね。いいですね。昔わたし先生方にとってもお世話になってね…」と若者にエールを送り、昔を懐かしんで話をされていました。入居者の皆さんは、今年の訪問も楽しみにしているところです。



お誕生日おめでとうございます

7月2日 山本君子 さん



93歳のお誕生日

ひまわりで飾られたリビングでお誕生日のお祝いを行いました。ご自身の年齢をお伝えすると「若いね!」「たいしたことないね!」と笑い飛ばしていました。親分肌の君子さんは、「皆で撮った方がいいわよ」と周りの方を誘い和気あいあい写真を撮られています。プレゼントの服も「これ私、似合うかしら?」と笑顔で言われ、とても気に入っていた様です。

今年初めての流しソーメンを行いました。暑い日が続く、冷たい食べ物や涼しげなものが欲しくなるこの時期、花の流しソーメンはいつも皆さんから大好評です。今回流しソーメン用に長いテーブルを作り皆さんに使っていただきました。スムーズに食べているところを見ると、少し低めのテーブルがちょうど良い案配の様です。今年の流しソーメンも半筒の上をいつも通りいろいろなものが流れてきます。ソーメン、トマト、ゆで卵、バナナ、刺身コンニャク…たくわん、梅干し、ゼリー、うまか

棒???と、食べれるものなら何でも流れてきそうな勢いに、皆さん楽しく召し上がっていました。「おいしいよ～あなたもたべな!」と皆に勧めたり、「これ食べていいの?」と遠慮がちに食べたり、「これもいいのかい?ふ～ん」と言いながらそれぞれ思い思いお腹いっぱい召し上がっていました。皆さん食欲があり、ソーメンは足りなくなり、追加のソーメンとそばを急ぎょ茹でて食べて頂いたほどです。今年の暑いひと夏は、こんな食欲で乗り切りたいと考えています。

流しソーメン (7月21日)



花の夏祭り (7月27日)



今年も盛大に夏祭りを開催すべく準備万端で臨んだ本番当日、朝から晩まで降り続いた豪快な雨に負けじと『花の夏祭り』を開催いたしました。予想はしていたものの、これほどの大雨になるとは想像できず、大変残念ではありましたが、当初の予定を変更し、屋内はAユニットとBユニットに分かれて行い、屋外では10張りのテントを一か所に集めて、この3会場でお祭りを実施させていただきました。このような天候であるにもかかわらず、ご家族様をはじめたくさんの皆様にお越しいただきましたことを心より感謝申し上げます。あわただしい中ではありましたが、

森山施設長と家族会三木会長が挨拶を行い、待ちに待った『花の夏祭り』が始まりました。ボランティアの屋台も朝早くから用意していただき、おかげさまで大盛況!ビール・焼き鳥・カレーライス・枝豆などおかわりが続き、お腹いっぱい食べていただきました。「ビール飲む!!焼き鳥たべよ!」「私、ビール2杯も飲んでるさ～」と賑やかなお祭りムードに食欲も沸きあがってきました。盛り上がったところで藤幼稚園の先生達『ダイヤモンドガールズ』の若さはじける元気なダンスを披露していただきました。ホームの中が明るくなり、皆さんの元気をいただいたようでした。「私、

一番いい席で観れた!!」と、うれしそうな様子の方もいました。なによりご家族に囲まれ、一緒に過ごされたひとは何ものにも代えがたい素敵な時間であったと感じます。ただ一つの心残りが、この日の為に練習してきた花笠音頭を皆さんお前で披露できなかったのがとても残念でした。是非秋の収穫祭に皆さんで踊りたいと考えています。今回の『花の夏祭り』では、たくさんの皆様にご協力とご支援をいただきまして本当に有難うございました。来年は爽やかな青空のもとで行えますよう願っています。

野外活動

畑を中心にがんばっています!



施設長コラム

私は昔から物作りが好きで、人が作れるものは下手でも自分もできるはずだと思っている人間です。この度入居者様が使う流しソーメン用のテ

ーブルを作ってみました。久しぶりの大工仕事に鈍っていた感も少しづつ戻ってくるのですが、予想以上に時間がかかり、職員との約束の日時までぎりぎりの取組みをしてやっと完成いた

しました。やはり物作りは楽しいですね。構想を立て、材料を選び、道具をそろえ、作りながらも頭の中の設計図を微調整しながら、使う人が一番使い易く安心感がえられ

る状態を考えて作ると、頻りに手が止まり、まる五日かかってようやくテーブル2台が完成しております。素晴らしいテーブルは出来ないものの、人の為に頭と体を動かして

いると心が豊かになってまいります。また、それを使ってくれる人がいることはとても嬉しいものです。